

◆ 2020 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：桶川みどりの会
代表者：代表 小川 佐
URL :

23A-08

1. 活動が必要とされた状況

整備活動の後半、薪割機・小型粉砕機も除間伐材の処理に活躍しましたが、発生材の処理に途方もない時間を要しました。今回「自走式ウッドチップパーKCM72B」の購入助成をお願いしました結果、作業はスピードアップし、シノ竹・小枝の山は、1年間で半分まで減少させることができました。

除伐材の処理が1年近く早まったので、樹木の適期に合わせた移植が可能になりました。



—5月のチップパー処理作業—

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

現在、9か所 2.6haの「市民緑地」等がフィールドです。
林内活動は定例：月2回、スポット：約50回・450名が参加。
〈冬季間〉越境樹木・枯損木処理、小枝類のチップパー処理。
〈春季間〉落葉かきで林床植物の観察、苗木の補植。
〈夏季間〉草刈・枯損木除伐。〈秋季間〉枯損木除伐。
チップパー処理作業は年間を通して行っております。
年3回の啓蒙活動の発表会は全て中止となりました。



—11月チップパーの山—

3. 活動の成果

70mm迄の枝材をチップパー加工し、散策路に敷き込み、その感触を味わいました。

放置されたシノ竹の量は半端ではなく、粉砕処理のスピードは格段にアップしました。

除伐材の山が無くなり、清々しい景観が生まれました。

作業が大きく前進し、林内の景観が一新できそうです。

幹材は薪に商品化し、枝材の粉砕処理と同時進行で整備できたので、苗木の選定・移植作業が、現実のものとなりました。

会員は現在21名。その日の活動が目に見えた成果となり、活動の喜び・楽しさを実感しています。



—11月埼玉県知事賞受賞—

4. 今後に残された課題

- ① 市内の里山は、周辺の開発で面積が狭隘化しており、20m位の老齢高木が道路・隣地の境界から大きく枝をはみ出し、近隣との係わりが大変難しくなっております。
林内活動での完結が難しく、業者の協力を含めた対応が必要になってきています。
- ② 竹・笹・常緑樹・枯木の除伐を行えば、そこには樹木がまばらな皆伐のような空間が出現します。持続可能な雑木林の再現に、老高木は50%前後に、3m位の幼木植樹を行い、途絶えることのない里山に再生できればと考えています。
- ③ 除伐材や間伐材を自然再生エネルギー等に活用できないか、これからの検討課題です。
- ④ 地域が必要とする里山の再生に貢献すべく、これからも活動を進めていきます。